

京丹後市学校再配置基本計画(素案)説明会

- 1 開催日時 平成 21 年 7 月 31 日 (金) 午後 7 時 30 分～午後 8 時 50 分
 - 2 開催場所 鳥取区事務所
 - 3 出席者 中山市長、米田副市長、大下副市長、米田教育長、石嶋市民課長、渡部企画総務部長、藤村企画政策課長、水野教育次長、松梨市民局長、高橋教育理事、山下学校教育課長補佐、粟倉教育総務課長、秋山指導主事、中島学校教育課主任 14 名
地元出席者 25 名
- 報 道 京都新聞、毎日新聞
- 4 内 容
 - (1) あいさつ
 - (2) 資料説明 ①京丹後市学校再配置基本計画 (素案)
②京丹後市立学校施設の耐震化計画 (素案)
 - (3) 質疑応答

5 要 旨

市長あいさつ、京丹後市学校再配置基本計画 (素案) 説明、京丹後市立学校施設の耐震化計画 (素案) 説明 省略第一回目を参照。

質疑応答

○ 開会 (市民局長)

定刻になりましたので、鳥取小学校区の学校再配置計画説明会を開催させていただきます。鳥取区長さんには、会場の準備をしていただきましてありがとうございました。私は皆さんご存知のように、この鳥取の出身の松梨です。弥栄市民局に勤めております。今日の司会進行を担当させていただきますので、よろしくお願い致します。

(市民局長) 教育委員会からの説明が終わりましたので、これから皆さんの質問やご意見をお伺いしたいと思います。9 時頃を目途に説明会を終了させていただきますので、よろしくお願い致します。地域にとりましても、保護者にとりましても、学校というのは非常に大きな問題でございます。忌憚のない意見をお願いしますので、どなたからでも結構です。マイクを渡したいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

(出席者) 1 クラス当たりの人数が、20 名を下回らないと書かれていますが、何名以上なら 2 クラスや 3 クラスになるという上限は決まっていますか。

(教育長) 人数の上限は、40 名です。41 名になると、2 クラスになります。

(出席者) 40名というのは、国の基準ですか。

(教育長) そうです。文科省の基準で、1クラスの人数は40名とすると決まっております。

(出席者) 京丹後市では30名を上限とする、というのでも大丈夫ですか。

(教育長) 40名までは1クラスということです。

(出席者) そうではなくて、40名に達しなければ、例えば39名は1クラスということですか。

(教育長) そうです。ただ、少人数の教育も必要だということで、京都府も力を入れまして、全てのクラスではありませんが、高学年は36名だったら指導補助を入れてもらえる権限があります。例えば京丹後市でそれが10クラスあったら、10名入ってもらえるということではありませんが。少人数指導、少人数学級という制度がありまして、30名台でも2クラスに分けられる可能性もあります。

(出席者) 私自身が、鳥取小学校で、ちょうど2クラスにならない数のクラスだったんです。非常にクラスが狭かったんですね。今、子ども達は20名くらいで、先生が目も行き届いて、少人数でのメリットがあります。10名だと少なすぎて、寂しい思いがあるんですけども、多すぎてどうかなと思うところもあるので、丁度良い人数、より良い人数を検討していただきたいです。

(教育長) 先ほど少人数と言いましたのは、低学年(1、2年生)は30名を超えると、先生を1名つけるという制度もございます。それから人数ですけれども、平成25年を目途としておりますのは、この年に5つの学校が一緒になった場合の人数は、1年生が40名、2年生が32名、3年生が49名、4年生以上は50名台です。1年生には先生が2人、3～6年生は2クラスになります。一番多い学年でも4年生が56名ですので、1クラスは28名になります。

(市民局長) 他に、ご質問、ご意見はございませんか。

(出席者) 一番心配なのは、統合されたときに教育条件が良くなるのか、悪くなるのかということです。障害を持った子ども普通学級で勉強しているということもあって、低学年で国の基準どおりに40名近くもいたら、先生はとてもしゃないけれども、やっていけません。全国的にそういう状況があります。弥栄は今5つに分かれて、先生が目も行き届いた中で勉強しているのに、大規模校になってもきちんとやってもらえるのかということが、一番の問題だと思います。この説明会で、もう少し具体的な資料で説明していただかないと、住民は判断が出来ないと思います。先ほど説明がありました「平成25年に1年生が40名…」という数字も、非常に重要な基準になると思います。だから、そういうものも、もっと出していただきたい。もっと言えば、25年だけでなく、その

先はどうなるのかを全部出していただいて、そのうえで学校の規模が大きくなったときには、京丹後市はこういう手立てをとります、低学年は 30 人以上にはしない等の具体的なことを説明していただきたい。さらに、通学の問題につきまして、鳥取小学校に統合された場合には、どの地区がスクールバスでどの地区が徒歩で、その生徒がどのくらいいるのかということも、具体的に出していただかないと、判断がしにくいです。住民説明会というなら、もっと丁寧に、我々が判断出来るようにし、市はデメリットとメリットについても書き、デメリットの対策についても出していただかないと、判断しかねます。もう少し丁寧な資料がいただきたいと思います。

(教育長) 今言われました詳しい資料等については、本当にその通りだと思います。今回は準備しておりませんが、27 年度までですが、次の機会には最新のものにしたいと思います。通学支援につきましては、鳥取区には支援対象となる地区がありませんが、支援対象となる地区のある学校区では説明をしております。それから、新しい学校の姿については、今の内に決めにくいということもあり、このようなことが考えられるという程度ですが、次回にはもっと具体的に説明出来るようにしていきたいと思います。

(教育次長) 通学支援についてお答えさせていただきます。基本的に 3km 以上を通学支援するということです。3km 未満に入る地区は、溝谷、鳥取、木橋、和田野、井辺です。ここは通学支援を考えておりません。3km 以上の地区は、芋野、堤、吉沢、外村、等楽寺、船木、黒部、国久、小田、野間地区です。なお、3km 以上としておりますが、冬季の除雪状況等、特殊な事情に対しては柔軟に対応していきたいと思います。通学に不安が出るような状況は、全部解消していきたいと思います。

(市民局長) 他の方でご意見、ご質問がございましたら、お伺いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

(出席者) 鳥取小学校は、来ていただくほうの学校なので、他の地区とは少し雰囲気が違うかもしれませんが、市全体のこととして考えたときに、お金が無いことと少子化の条件があって統廃合になったと思います。各地区の要望全てに応えるのは無理だと思いますし、お金が無いということを市民も知らなければならぬと思いますし、市民で考えていかななくてはならないと思いますが、それにしても市からのメッセージ性が無いと思います。細かいことや、バレーやソフトが出来ないということは、わざわざ言ってもらわなくても良いと思います。弥栄中はバスケットも出来ませんし、サッカーも無いですし、敢えて言ってもらわなくても良いので、もう少し、一人の子どもが地域で成長するために何が必要なのかとか等のことを、是非メッセージとして発信していただきたいで

す。先ほども言われましたけれども、デメリットは説明をして、それをどうフォローして、どういう地域を作りたいか、どういう教育をして、どんな子どもを育てたいのか、というところが市民に伝わると、それなら自分達でも考えてみようということになる部分もあるのではないかと思います。それから、先ほど教育長からもありましたが、平成 19 年からこの話がありまして、検討会の会議録もホームページで公開されていまして、次にパブリックコメントがありまして、でも意見が出ずに、結果として延びた気がするんです。そのことは、統廃合についてだけではなく、他の審議会のあり方にも関わると思います。検討委員会は意味が無いというわけではありません。しっかりと答申をしていただいたとは思いますが、本当に地域の声や、一人ひとりの市民の声が届くような審議会なのか、結果ありきで、人だけ集めて、大体意見を聞いたという形を作ろうとしているのかと思います。今回の統廃合がこのようになってしまうと、他のところも結果ありきの審議会なのかなと思います。私も色々参加させてもらって、そうならないようにしていますが。

(市長) ありがとうございます。先ほどのメッセージの件についてですが、お金が無いという話ですが、市の財政も大変厳しい状況で、教育に対して効果的な支出を行わなければならないし、同時に財政が破綻するということは避けなければならない。そういうことが大前提にあります。今回の学校再編を考えた一番は、子ども達の成長、教育をするうえでどのような学校のあり方が良いのか、子ども達にとって大切な学校をどうしていくのかということを中心に考えていかなければならないということで出発しました。小規模の良さも様々ありますが、20 名以上の中規模です。メリットを考えたときに、この規模に再編したいという考えを出しながら、今回説明させていただいております。子どもにとって何が一番良いかを考え、分科会等でも検討していただきました。財政が破綻しないということは大前提ですが、一番なのは、一人ひとりの子どもが一日の大半を過ごす場として、どのような学校のあり方が望ましいかを考え、説明させてもらっているということでございます。

(教育長) 補足させていただきます。お金の件がありましたが、再配置の話題が出てきましたときには、国、府、市から、費用がかかるので何校にしないかということではなく、合併を機に教育環境を見直そうということでした。弥栄でも最終には 1 校案が出てきたのですが、教育委員会事務局からは何も言っておりませんが、2 校案も出てきました。

第 1 回検討分科会の意見

- ・ 統合の話であれば、私は参加出来ません。
- ・ 何を基準に考えたら良いのか。

- ・ 人数が多いと良いと言われるが、色々な人と話していると逆もある。
- ・ えらいところに来てしまった。しかし、子ども達にとって良いところになりたい。

第2回目に出た意見

- ・ 野間は以前から複式である。人数が少ないからといって、統合は無いだらう。
- ・ 教育委員会は減らすことしか考えていない。市教委は考えを持っていながらそれを出さずに、この組織をクッションとして扱おうとしている。
- ・ 統廃合を前提に話している。現状ではだめなのか。現状でも問題は無いように思える。

第3回目の会議

意見は平行線でしたので、座長さん、副座長さんが次のような案を出されました。

- ・ 第1案 吉野、溝谷、黒部、鳥取、野間を現状のままで継続
- ・ 第2案 吉野、溝谷、黒部、鳥取が統合し、野間は継続
- ・ 第3案 吉野、溝谷が統合、黒部、鳥取が統合、野間は継続
- ・ 第4案 吉野、溝谷を統合、黒部、鳥取、野間を統合

平成19年度～25年度までの各クラス数を調べて、メリット・デメリットを考えてくるようにされました。

最終報告（平成20年5月）

- ・ 合計8回開催された分科会において、当初は再配置に否定的な意見もあったが、子どもの将来を考え、今後の児童数・生徒数を考慮して検討した結果、17名の委員の総意によって下記のとおりまとめることが出来た。再配置後の学校数について…現在5校ある小学校を1校に統合する。上記の理由…現在の学校をそのまま使うということなら、弥栄町での再配置は無理。でもせつかくなら既存施設の耐震補強も含め、1校にすべきである。子どもの数がこんなに急激に減るとは思わなかった。今後もこのような状況が続くであろう。それなら、2校にするよりも1校にして2クラスにしたほうが、子どものためにも良い。

以上が、話された経過です。

（市民局長）他の方で、何かご意見はございませんでしょうか。これだけは絶対に言っておきたいというご意見、ご質問がございましたら、お願いします。

（出席者）統合は避けて通れない道だと思いますが、統合した場合に、例えば20人学級の中に、2人、3人が入るというような状況がクラスの中に生じると思います。その時は、子ども達に精神的に不安なことへのケアが必要になって

くると思います。そういう面での対策や配慮はどのように考えられているのでしょうか。

(教育長) 非常に人数の少ない学校の子どもさんが一緒になった場合、集団の中に馴染めるかということですね。竹野小と間人小の再配置についても、人数が少ないからといって、お客さん扱いにならないだろうか、持ち物が違うことで、仲間はずれやいじめに遭わないだろうか、という心配が非常に多く出されました。お母さんのご心配ももつともだと思います。仮に統合が決定しましたら、その段階で持ち物等についても徹底的に学校で交流をします。原則として、今までの物を使います。

(出席者) 細かい話ではなく、今までは学習面でも1人の先生が3名の子どもを教えていたのが、何倍にもなります。大勢の中の一人という形になってきますので、そういう面でどうなのかということです。

(教育長) 指導の面についてですね。指導の面においては、20名規模で、先ほど言いました人数になります。20名ではそんなに大きな規模では無いと思います。先生は、40名を指導するという立場で業務を執行してきておられます。20名以下でも、多様な子どもさんがおられますが、そういったお子さんに対しては市の配慮で補助をつけてもらっています。授業については、校長先生を中心に学級の状況を細かく点検します。5つの学校の子ども達が、十分な教育を受けられているか、悲しい思いをしていないかについては、一番大きなポイントに置きながら取り組んでいきます。教育委員会も一生懸命指導をしていきます。

(出席者) 統合してからではなく、統合する前に補助教育とか、そういうものは無いのでしょうか。

(教育長) 学級数により教員の配置が法で決まっております。はっきりとお約束は出来ませんが、統合をした年度であることを理由に、事前に介護の先生がつくように出来るとか、府に考えてもらえないかお願いをしていきたいと思います。ただ、再配置が一斉に進まない場合もあります。その時は、京丹後市の枠内で、必要な学校に優先的に配置することも考えられます。補助は出来るだけ手厚くしていきたいと思っております。

(出席者) お願いします。

(出席者) 以前に弥栄では小学校を建替えるときに、1校案が出たにもかかわらず、新校舎を建てて現状となっています。そういう意味では、地域にとって学校の大事さがあると思います。学校は子どもに教育をする場だけではなく、地域のまとまりの場でもあるわけです。鳥取小の運動会では保護者や地域の住民が集まって、その地域の文化を作っています。それは黒部でもどこでも同じだと思います。統廃合になると、お年寄りも運動会等に参加することを非常に

楽しみにしているのに、遠いので学校に行けず、楽しみを奪うということになってしまう。学校が単に教育の場であるだけでなく、地域の拠点だと思います。そういうことを踏まえての統廃合でないといけないと思うんです。今までの学校の役割やデメリットを含めてどう考えるかのメッセージを出していただかないといけない。統廃合したら後は知りませんよ、というのでは済まないと思います。学校が持っている機能のようなものを、しっかりと捉えたうえで言うて欲しいです。あくまでも子ども達のことを思って統合案を出したと言われますが、各地域から小規模で困るから統廃合して欲しいという意見が出て、それを市が取上げて統廃合の案が出てきたのなら分かります。しかし、上から統廃合を考えるように言われた。統廃合案を出す前に、こういうことが出来たのではないかと思うんです。弥栄の場合、本当に各 PTA から、そういう声が上がっているんですか。

（教育長）統配合をして欲しい、というのが地域から上ってきて、計画に取り組んだわけではありません。市が合併することにより、非常に小規模の学校が点在するから何とかということで、合併協議会が作られ、2年間協議されたことを引継いで、現在私達が取り組んでいるということです。また、以前の小学校建替えのときには、弥栄町には700名前後の児童がおりました。しかし、平成27年度には247名になります。人数が非常に減ってきて、当時出されていた1校案にする背景と、現在とでは少し違います。去年4月2日から今年4月1日までに生まれた赤ちゃんは、31名です。5年後に1年生になります。また、学校の機能を地域に戻すということについては、本当に大事なことだと思います。例えば、学校主催の運動会を各地域に回ってすることは難しいですが、地区運動会や地区の文化的行事を学校と一緒にしながらどう取り組むか、を考えていく必要があるのではないかと思います。そこを充実していけば、言われた心配はある程度解消されるのではないかと思います。

（市民局長）よろしいでしょうか。他にありませんか。無いようでしたら、予定しておりました時間に近づいて参りましたので、本日の説明会は終了させていただきます。